

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年11月16日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.65】

## 松崎氏は今も革マル党建設に取り組みJR内活動家から尊崇！

前号の通り、2009年10月26日の「週刊現代裁判」一審判決は、警察が作成したとみられる革マル派「綾瀬アジト」からの押収物の解析資料(丙38号証)などを理由に、東労組元会長の松崎明氏について、西岡記者が「革マル派最高幹部であると信じたことについては、相当の理由がある」と判じた。この資料を記載した宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌」(p.60~)の内容を基に、驚愕的記述について紹介していきたい。

### 組織実態

綾瀬アジトから押収した資料を分析した結果、黒田寛一(注:2005年6月26日死亡)と松崎明について組織内(注:革マル派内)では、「最高指導者同士」と表現していることからして、両名は、現在も革マル派最高幹部であることは明らかである。また、革マル派の全組織を指導する最高機関としては、結成時の規約どおり、現在も「全国委員会」があり、その下には、指導・実務機関として「政治組織局」「書記局」「機関紙編集局」の三局と、地方機関として「地方委員会」が置かれていることが判明した。

### 松崎明について

松崎明は、昭和38年2月の革マル派結成当時の副議長で、議長の黒田寛一と共に同派を指導してきたと言われていたが、今回の押収品から、松崎は、現在も組織内では、「理論の黒田、実践の松崎」と言われ、「黒田に次ぐ最高幹部として組織内では絶大な権限を有しているほか、革マル派幹部を指揮・指導し、党建設に精力的に取り組んでいる」ことが判明した。

押収資料には、「松崎が組織幹部に指示した内容等を記載した文書」や「松崎が幹部の学習会で党建設等について指導した文書」、「反党活動をした幹部が松崎に提出した謝罪文・自己批判書」、「組織指導部の各幹部が松崎に報告した事項を記載した文書」、「松崎が組織幹部を権利停止等の処分にした事実を記載した文書」、「松崎の指示を下部組織に徹底するよう指導した文書」等が大量にあった。

松崎明の指示等内容は、全て組織に報告されているほか、組織幹部は、松崎に対して報告等を行う義務を負っている。

松崎明は、黒田寛一と同様、革マル派の組織全般にわたって指揮・指導している。特に、同派のJR産別組織に対しては絶対的権限を有し、JR内活動家からは黒田以上に尊崇されている。

## 黒田氏亡き後、松崎氏は革マル派No.1幹部なのか

このように、1996年に摘発した綾瀬アジトから「松崎が組織幹部に指示した内容等を記載した文書」等が大量に押収されたという。「革マル派幹部を指揮・指導し、党建設に精力的に取り組んでいる」「松崎明の指示等内容は、全て組織に報告されているほか、組織幹部は、松崎に対して報告等を行う義務を負っている」などの記載から、警察は現在も松崎氏を革マル派最高幹部であると確信していることは明らかだ。JR内活動家からは黒田以上に尊崇されるとも記載されており、東労組が崇める通り、まさに「人格的代表者」である。黒田氏が死亡したということは、今や、松崎氏は名実ともに革マル派No.1幹部ということだろうか。